

## Thermo 2012 in Guilin の報告

長谷部徳子

国際FT workshopが、FT法だけでなくU・Th/He法やAr/Ar法を包括する国際熱年代学会議に進化して以降、2度目の会議が中国・桂林で2012年8月23-28日に開催されました。日本フィッショントラック研究会からの出席者は、金沢大学より長谷部徳子・伊藤健太郎、日本原子力研究開発機構より末岡茂、防災科学技術研究所より山田隆二（敬称略、アルファベット順）でした。京都大学の田上高広氏も参加予定でしたが事情によりキャンセルとなりました。また日本人としてはドイツ在住の周藤正史氏、日系としてはブラジルよりNakagawa氏（学生、名前と見かけから類推しただけで、全く日本とは縁のない方かもしれません）が出席していました。折しも日中の領土問題を巡る問題が取りざたされ始めた頃だったため、多くの人に心配されての参加でしたが、当時の現地では懸念を感じさせる雰囲気はみじんもなく、報道とのギャップを感じました。

当初長谷部が参加登録したときに、決して早々に登録したわけではないのに登録番号が4番であった事から、内心開催を危ぶんでいましたが、組織委員会長のAndy Gleadow氏がその後積極的に繰り返し参加呼びかけの案内を送った事が功を奏したのか、結果的には各国の主たる研究グループが出席し、85件の口頭発表、64件のポスター発表がエントリーされていました。しかしながら不思議な事に自国開催であるはずの中国人の発表のキャンセルが多かったため、実質の発表数はもう少し少ない現状でした。

学会は、いわゆる中国スタイルで行われ、昼食、夕食とも登録費でカバーされ、ゴージャスなGuilin Waterfall Hotelにカン詰めとなって議論が進められました。定番の発表のなかでもやはり中国という事で、チベット高原の発表が多く議論がにぎわいました。また基礎研究としてはジルコンの放射線損傷（ $\alpha$ 損傷、 $\alpha$ リコイル損傷）が、Heの拡散やラマン分光、AFM観察等、多岐に渡るトピックスとして話題となりました。前回の会議に比べると熱年代学会議としての話題の広がりには後退していたこと（Ar関連の話題が少なかった）、ポスター発表の時間が十分ではなく消化不良であったことが残念でしたが、ICOGの末路を見ている私たちにとっては、少なくとも次につながる会議となったことが大きな安堵となりました。次回は2014年にフランス・シャモニーで、2016年にはブラジルで開催される事まで正式に決まっています。2018年はおそらくドイツで開催される事になりそうです。2020年以降はまだ白紙ですが日本もいつか開催地としての候補に挙がる可能性もあるため、国内での議論を進めておく必要が有るかもしれません。

（写真は学会ホームページ上のものを使用しました）



会場の様子



ポスター会場の様子



組織委員会の様子